

シンポジウムⅠ

5. 海中研究室「アクエリアス」を用いた
サンゴ礁研究について

野島 哲

(九州大学理学部天草臨海実験所)

サンゴは熱帯から亜熱帯にかけて広く分布し、環境変動に敏感に反応して消長すること、またサンゴの骨格に過去の環境変動の履歴が残されていることから、地球環境変動の生物指標として注目されている。さらにサンゴが海洋の一次生産者として重要で、かつサンゴ礁生態系が海洋の生物生産のうえで大きく寄与している。

こうしたサンゴ研究の一環として、1999年7月、演者と岡本（海洋科学技術センター）の2名が、米国の海中研究室アクエリアスを利用する機会が得られた。研究の目的は、分布するサンゴの種類・現存量の把握、サンゴ単体の生産量計測、海域のサンゴの生産量の見積もり、数十年間のサンゴの成長量の変化把握等であり、8日間の滞在期間を活用して効果的な調査を行うことができた。演者にとって飽和潜水は初めての経験であったが、研究のうえでの効果は絶大であった。同装置の機能を、利点・要検討点・その他に分けて述べると以下のようである。

【利点】無制限に近い潜水時間。海中アクセスが容易で体力の消耗が少ない。動揺が無く快適な研究環境。多くの一般研究機材の利用が可能。充実した通信機能。

【要検討点】施設が固定されていることによる研究対象の制限。環境面からの化学分析の制限。電線・信号等用の貫通金物の不足。ミッション日数が固定されているための制限。アクエリアスが浮上できないための研究機材準備の困難性。安定した海上支援施設が無いための支援内容の制約。

【その他】非常事態への対処法訓練の徹底が必要。広範囲の水平移動が必要。

わが国が、こうした施設による海中研究分野に積極的に取り組むことにより、沿岸環境の諸問題を研究・解決するうえで、飛躍的な発展がもたらされるであろうと感じた。

シンポジウムⅡ

1. 北海道地区における技師勉強会の現状

小熊美行*1) 矢吹好男*2) 長内 宏*3)
安藤貴司*3) 佐藤新治*4) 岸 則和*5)
関川智重*6) 菅原時人*6) 長谷川清純*7)
鈴木尚人*8)

*1)医療法人厚翔会桜台病院高気圧酸素治療室

*2)医療法人新さっぽろ脳神経外科病院

*3)医療法人社団静和会静和記念病院ME科

*4)市立根室病院臨床工学室

*5)社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院

*6)旭川医科大学臨床工学室

*7)医療法人柏葉脳神経外科病院

*8)医療法人財団敬和会時計台病院

我々北海道内で高気圧酸素治療（以下HBO）に従事する技師達による私的技師勉強会の発足の経緯と経過については第27回日本高気圧環境医学会技術部研究発表会にて既に報告した。

その後も試行錯誤を繰り返し継続して来たこの私的技師勉強会も、昨年北海道臨床工学技士会及び高気圧酸素治療安全協会後援の下、名称を「北海道高気圧酸素治療技術研究会」として、公的な技師勉強会を目指し新たなスタートを切った。

北海道ではHBO装置の普及率には目ざましいものがある。しかしその一方でHBOにおける技師の立場、背景を考慮した時、必然的により自助努力が要求される状況にある現在、安全なHBOを行う為に必要な知識・技術・情報をこうした技師勉強会に求めている者が多い。それは回を追う毎に参加者が増え、特に昨年及び一昨年の100名を越す参加者がある事からも明らかである。

又、地域での技師勉強会を通じ、技師相互で切磋琢磨して行く事はHBOの真の安全対策確立の為の第一歩になるのではないかと考えられる。

今後は、HBOの安全性の向上をより一層図る為にも、現在各地で行われつつある技師勉強会とも交流を深め、より多くの知識と情報を收拾し会員に提供する事も大切ではないかと考えている。